



千葉大学医学部同窓会報 第136号

題字 故 鈴木五郎 (大11卒 元あのはな同窓会長)

編集発行者
千葉大学医学部
あのはな同窓会報編集部
〒260-8670 千葉市中央区交鼻1-8-1
千葉大学医学部内
あのはな同窓会
電話 (043) 202-3750
FAX (043) 202-3753
e-mail : idoso2@med.m.chiba-u.ac.jp
HP : http://www.inohana.jp/

あのはな同窓会総会のお知らせ

今年度のあのはな同窓会総会を左記により開催致します。

同封の葉書にて出欠の返事をお送り下さい(6月14日必着)。

一、日時

平成16年6月19日(土)

午後3時より

一、場所

京成ホテルミラマール
(京成千葉中央駅隣接)

☎043-222-2111

一、総会次第

会長挨拶

(1) 会務報告

(2) 議案

1 平成15年度決算承認の件

(イ) 決算報告

(ロ) 監査報告

2 平成16年度事業計画の件

3 平成16年度予算(案)

4 名誉会員の推薦について

5 会則の改定について

(3) 報告事項

1 学外研究助成選考について

2 同窓会賞選考報告

3 同窓会会報関係

最終講義

伊藤晴夫教授

平成16年2月18日(水)午後3時30分より、遺伝子機能病態学(旧泌尿器科学)伊藤晴夫教授による最終講義「教室における最近の臨床的および基礎的研究について」が千葉大学医学部附属病院第一講室で行われた。臨床に関する部分では、尿路結石症、副腎疾患の鏡視下手術、膀胱癌に対する新療などについて、その特色

や優れた治療成績を紹介された。研究については、まず、腎癌、膀胱癌、前立腺癌、精巣癌などの尿路性器悪性腫瘍に関する遺伝子解析を中心に紹介された。ついで、伊藤教授のライフワークの一つである尿路結石症に関して、臨床検体解析の苦労話や、得られた結果をさらに発展させ、今日のシスチン尿症責任遺伝子同定に至るまでの過程を示された。これらの成果は、次代を担う医師・研究者にとって大変参考になるものであった。最後に、日本不妊学会

あのはな同窓会賞表彰式および受賞者挨拶

特別講演

医学研究院長 福田康一郎
「法人化を迎えて医学部の現状と展望」
教育講演
麻酔学教授 西野 卓

「千葉大学病院における医療事故と医事紛争防止の試み」

懇親会

午後6時より、会費一万円(当日受付にて申し受けま

す)
なお、千葉県あのはな会総会は午後2時30分〜3時に開催致します。

里村洋一教授

平成16年3月2日15時より、医療情報部里村洋一教授による最終講義「電子カルテへの軌跡とその先にあるもの」が千葉大学医学部附属病院第一講室で学内のみならず全国の医療情報関係者など満員の聴衆の中で行われた。

講義の前半では、Webによる診療録の改革からはじまり、病院情報化の軌跡をたどりながら、黎明期の苦労話やその頃に構想した電子カルテ用診療デスクのイメージ、自ら開発された



里村洋一教授

ソフトウェアなどを紹介すると共に、データ共有のために必要となる標準化などの重要性を改めて示された。後半では本院電子カルテの現状とその先にある現在開発中のシステムが紹介され、最後に医療情報の本質的な効用を述べられると共に「どんなことが考えられる

かということばかり論じているのもよいが、実際に出来ることを扱うのが科学なのである」というStephen Jay Gouldの言葉が締めくくられた。

講義終了後、学生代表の謝辞、花束贈呈が行われ、引き続き第三講室で記念パーティーが開かれた。同窓の諸先生方、現役教授、名誉教授、学生、医局員、そして学外からも里村教授を慕う全国の医療情報研究者、技術者が多数参集し、きわめて盛会の内に終了した。(医療情報部 鈴木隆弘)

あのはな同窓会 学外研究助成募集

第6回(二〇〇四年度)あのはな同窓会学外研究助成を募集致します。詳細は16面をご覧ください。

紙面紹介

| | | | |
|------------------|-------|---------------------------|-----|
| あのはな同窓会 総会のお知らせ | 1面 | 人事異動 | 10面 |
| 就任の挨拶 | 2〜3面 | 常任理事会議事要旨 | 11面 |
| 叙勲・表彰 | 3面 | 千葉大ブライマリー・ケアセミナー | 12面 |
| 附属病院ニュース | 3〜4面 | 平成16年卒業生の卒後研修先 | 13面 |
| 同窓会員書書の紹介 | 4面〜5面 | 平成17年度千葉大学医学部附属病院医員募集について | 14面 |
| クラス会 | 6面 | 平成16年度活性化事業(案) | 15面 |
| 各地あのはな会だより | 6〜7面 | 第9回あのはな同窓会賞受賞者決定 | 16面 |
| 出張セミナーのお知らせ | 7面 | おくやみ編集後記 | 16面 |
| 同窓会名簿の作成に関するお知らせ | 8面 | | |
| 平成16年度医学部入学者 | 10面 | | |

伊藤晴夫教授を囲んで

(遺伝子機能病態学・旧泌尿器科学 市川智彦)



教授就任挨拶

遺伝子機能病態学(腎・泌尿器・男性科)

市川 智彦(昭59)



本年4月1日付で、伊藤晴夫教授の後任として、千葉大学大学院医学研究院遺伝子機能病態学ならびに千葉大学医学部附属病院腎・泌尿器・男性科を担当させていただきますことになりました。

千葉大学が国立大学法人となり、卒業臨床研修必修化が開始される節目の年に大任を仰せつかり身が引き締まる思いです。

私は、昭和59年に千葉大学医学部を卒業し千葉大学医学部附属病院泌尿器科にて研修を行った後、昭和60年に千葉大学大学院医学研究科に進学致しました。大学院では、当時教授であられた島崎 淳先生の勧めもあり、染色体レベルでの研究を行うことになりました。当時放射線医学総合研究所障害基礎研究部室長であら

れた早田勇先生(現同研究所部長)から染色体解析の手法について指導を受け、それがその後研究を遂行する上での基盤になったと考えています。大学院卒業後、米国メリーランド州ボルチモア市にあるジョンズホプキンス大学オンコロジーセンターに2年ほど留学致しました。日本で身につけた染色体解析の技術を用いて多くの論文を発表することができ、現在の研究課題である「前立腺癌に対する転移抑制遺伝子の同定とその臨床応用」の土台が出来上がりました。帰国後は島崎 淳先生のもとで昼間は大学病院において診療に従事し、夜は研究室で大学院生と共に米国で開始した研究を継続しておりました。幸いに、研究費にも恵まれ、一つの方向性を持って順調に研究を進展させることができました。

大学病院において行ったいた診療の一つに男性不妊症がありました。私自身が

その後一患者として治療を受け、子をもうけることができたことから、私のライフワークの一つとなっています。泌尿器科領域でも1990年代に入り、腹腔鏡手術が導入されました。当初は手技が比較的容易であるということから、男性不妊症の原因の一つである精索静脈瘤に対して腹腔鏡手術が行われるようになりました。男性不妊症を担当していたことから、運良く導入期から腹腔鏡手術に取り組む機会に恵まれました。その後その経験を生かすことにより、千葉大学において腹腔鏡下副腎摘除術、腹腔鏡下腎摘除術、高度先進医療として申請中の腹腔鏡下前立腺全摘除術を実施することができたと考えています。

平成8年には、伊藤晴夫先生が教授として着任されましたが、継続して研究や診療を行える機会と環境をいただきました。平成9年からは帝京大学医学部附属市原病院泌尿器科に講師として赴任しました。在籍期間は一年間だけでしたが、私立大学の経営方針について垣間見ることができました。これは、私自身が国立大学法人となった千葉大学の将来を考えていく上で、貴重な経験となるものと考え

えています。平成10年に再び千葉大学泌尿器科に講師として戻って参りました。その後医学研究院の設置に伴い、助教授に昇任し、この度の教授就任に至りました。この間、腹腔鏡手術、顕微鏡手術、前立腺癌に対する高度先進医療、不妊内分分泌疾患に対する診療、前立腺癌における基礎医学などの発展に尽くして参りました。また、平成12年に開催しました第3回アジアオセアニアアンドロロジー国際会議、平成15年に開催しました第48回日本不妊学会総会および学術講演会では、伊藤晴夫会長のもとで事務局長として運営を行い、この分野の発展に尽力致しました。

今後は、私が今までに経験してきたことを生かして、質の高い腎・泌尿器・男性科診療を提供していくとともに、高度先進医療を中心とした診療の発展や、地域との連携にも務めていきたいと思っております。独立した機関として最大限に機能するよう、業務の効率化にも積極的に取り組んでいきたいと思っております。また教室のホームページを充実させ、教室における成果や将来の目標などを示すとともに、それらの情報を社会に還元して

いきたいと思います。若輩でありまだまだ力不足な身ではありますが、自分に課せられた使命を果たすことにより、少しでも千葉大学の為に貢献できるよう努力



基礎病理学(旧肺研病理学)
中谷 行雄(横浜市大・昭53)

今年3月22日付けで千葉大学大学院医学研究院基礎病理学の教授を、また、4月1日付けで医学部附属病院病理部部長の職を拝命いたしました。伝統ある本大学の一員に加えていただきましたことを大変光栄に存じます。

私は1978年に横浜市立大学医学部を卒業しましたが、在学中から今に至るまで千葉大出身の多くの方々と親しくさせて頂いた。また、大変お世話になり、千葉大学はこれまでも私にとって大変親しみの深い大学でありました。学生時代はバスケットボール部と柔道部の部員で二足のわらじでしたが、バスケットでは、当時

の市大は超弱小チーム、千葉大はかなりの強力チーム、その弱小チームが私達新人数名が加入した1972年、東医体予選の初戦で千葉大を前半リードして一泡ふかせる善戦をしたことが懐かしく思い出されます。大学に入ってから始めた柔道では、千葉大ですぐ上の学年の木村正幸さん(昭52)と力比べの柔道を競ったり(思い出すと赤面です)、大塚さんにはへびににらまれたカエルのようになって、寝技で見事にしとめられたり、一つ一つが青春時代のかけがえのない思い出です。卒業し、第二病理学教室に入りましたが、間もなく第一病理学教授に就任された蟹澤成好先生(昭31)(現横浜市立大学名誉教授)には、教室の枠を越えて大変親切にしていただき、多くのことを教えていただきました。また、現横浜市市民病院病理

部長の中村先生には現在に至るまで大変お世話になっています。その他にも、これまで千葉大出身の多くの先生方に親しくしていただき、ありがとうございましたことを大変感謝しております。

さて、私は人体病理学、特に外科病理学・呼吸器病理学を専門分野としてまいりました。この十数年は横浜市立大学医学部附属病院及び同センター病院病理部に在籍し、外科病理診断の実務と研究・教育に従事してきました。病理学は病因と発生機序を追求・解明する基礎研究的分野から日常診療において遭遇する種々の病変を的確に診断し、治療方針の決定と予後の判定に寄与する診断医学的分野まで、幅広い領域にわたります。私はこれらがバランス良く発達することにより、初めて医学における病理学の責務を十分に果たせるものと信じております。しかしながら、我が国においては、長年病理学の基礎研究の結果として、未だに市中央の大病院でさえ、せいぜい一名の常勤病理医の献身的努力で、辛うじて診療が成り立っているところが少なくありません。これは、米

外科医と同じような研修システムで病理医が育成され、その多数が市中の病院において活躍している状況とは大きな隔りがあります。私は、微力ではありますが、外科病理学を志した者として今回与えられました機会を生かし、医学部附属病院における病理診断システムを確立して、診療に貢献すること、次世代の病理専門医を育成すること、また、

埼玉医科大学内科学循環器内科部門

小宮山 伸之(昭58)



平成16年1月1日付けで埼玉医科大学内科学(循環器内科部門)教授に着任いたしました。私は昭和58年に千葉大学医学部を卒業し第三内科学教室(故稲垣義明教授)に入局しました。初期研修の後、昭和61年4月から国家公務員共済組合連合会虎の門病院に内科シニアレジデントとして勤務しました。平成元年から循環器センター内科医員として虚血性心疾患の侵襲的診

第一線の病理診断実務から生じた疑問や知見と基礎研究を橋渡しするような領域の研究を行い、時代の進歩に合った外科病理学を推進することが自らに課せられた責務と考えております。何分にも、浅学非才の身でありますので、何卒同窓会の皆様のご指導、ご鞭撻、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

断・治療を中心に診療と研修医教育に携わりました。また、併設の沖中記念成人病研究所等からの援助により臨床研究の機会にも恵まれ、特に血管内視鏡や血管内超音波法の臨床応用を国内で先駆けて行い国内外の学会で報告しました。平成7年7月から一年間米国立タンフォード大学医学部・心血管インターベンション研究センターに留学し侵襲的診断・治療法の研究をさらに発展させました。その成果に対して同大学より優秀フェロー賞をいただきました。帰国後は虎の門病院に復帰しましたが、平成11年1月より千葉大学医学部

附属病院・冠動脈疾患治療部講師に着任し、平成12年1月からは同部副部長として診療件数や外部紹介患者数を毎年増加させ、地域における虚血性心疾患診療の中核施設としての役割を果たしてきました。

平成16年1月1日付けで埼玉医科大学内科学(循環器内科)教授に着任いたしました。私は昭和58年に千葉大学医学部を卒業し第三内科学教室(故稲垣義明教授)に入局しました。初期研修の後、昭和61年4月から国家公務員共済組合連合会虎の門病院に内科シニアレジデントとして勤務しました。平成元年から循環器センター内科医員として虚血性心疾患の侵襲的診

附属病院ニュース
病院長 藤澤 武彦(昭42)

は尾本良三病院長、許俊鋭主任教授のもと大変活発で平成14年10月には心臓移植実施施設に認定されました。現在補助人工心臓を装着し移植待機中の患者が2名おり、当内科も外科と協力してスタンバイの状況です。また、地域の基幹病院として救急患者も随時受け入れ密接な地域連携を保とうと努力しています。さらに平成19年度には国際医療セン

ターが設立予定であり、心臓病センターもその中で一層の発展をめざしております。高度最先端・最良質の技術で患者様も地域の先生方も満足する循環器診療を行いトップレベルの卒前後教育・臨床研究開発を実現することが私の使命と考えています。同窓の先生方の御指導・御鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

附属病院の主な出来事(H15・11・H16・3)

○平成15年12月15日
厚生労働科学研究補助金による治験推進研究事業「セクシユアル・ハラスメ」の着任となりました。当科には不整脈担当の松本万夫教授(広島大昭54)もおられ、私は三人目の教授ということになります。虚血性心疾患の特に侵襲的内科診療(冠動脈インターベンションなど)を担当しております。附属病院は定床数1,483床で平成15年1月に(財)日本医療機能評価機構による認定(複合B)を受けております。そのうち、循環器内科は55〜60床余を担当しており、外来診療では心臓病センター心臓内科を標榜しています。心臓血管外科

本院におけるセクシユアル・ハラスメント防止対策として本学教育学部の佐藤和夫教授を講師に招き、「セクシユアル・ハラスメ」の着任となりました。当科には不整脈担当の松本万夫教授(広島大昭54)もおられ、私は三人目の教授ということになります。虚血性心疾患の特に侵襲的内科診療(冠動脈インターベンションなど)を担当しております。附属病院は定床数1,483床で平成15年1月に(財)日本医療機能評価機構による認定(複合B)を受けております。そのうち、循環器内科は55〜60床余を担当しており、外来診療では心臓病センター心臓内科を標榜しています。心臓血管外科

○平成16年2月27日
有識者懇談会
広く学外の有識者を招き、自由な立場で大学病院に対する意見をいただいた。当日は、弁護士渥美雅子様、(株)千葉県看護協会会長新井藤江様、千葉トヨベツ(株)取締役社長勝又基夫様、(株)千葉日報取締役会長土屋秀雄様、千葉中央会計事務所所長手島英男様、大本山成田山新勝寺貫首橋本照穂様が出席され、国立大学法人化について活発な意見交換が行われた。

○平成16年3月25日
メンタルヘルズ講演会
本院におけるメンタルヘルズ対策として心相会八千代病院山内直人副院長を講師に招き、「職場のメンタルヘルズ」―管理監督者の役割―と題し講演会を開催した。(次頁参照)

祝 叙勲・表彰

○平成16年2月9日〜11日
司法研修所医療現場研修
国民の司法に対する需要が多様化し、高度化している中、裁判実務との関連が深い専門分野について、基礎的知識を習得することを目的として行われた。当日は、平成13年10月に任官した判事補8名が来院した。医療現場及び医療事故防止のための取り組み等を間近で体験するとともに、病院関係者との懇談では活発な意見交換が行われた。

平成16年 春の叙勲
瑞宝中綬章 庵原 昭一(昭31)
船橋 茂(昭31)
旭日双光章 志村 昭光(昭30)
瑞宝小綬章 館野 之男(昭34)
平成15年 表彰
第39回小島三郎記念文化賞 橋爪 壮(昭27)

あのはな同窓会への寄附

故麻尾健一氏(昭和医専13)の奥様愛子様より5万円
ありがとうございます。

感謝状贈呈式

○平成16年3月4日
モバイルアイソレーター簡易隔離システム及び人工呼吸器ニューポートベンチ

臨床医学研究助成会(講演会)懇談会

○平成16年2月20日
多くの臨床医学研究助成会委員が参加し、「ホテルサンガーデン千葉」で開催された。

セクシユアル・ハラスメ

○平成15年12月24日
セクシユアル・ハラスメント防止に係る講演会

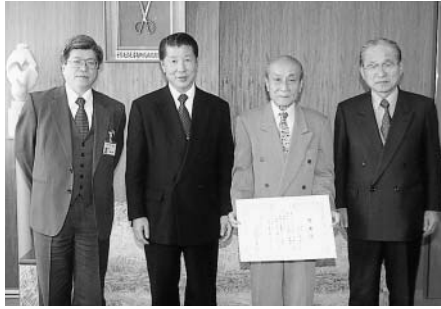
千葉県
るのほな会への感謝の言葉

病院長 藤澤 武彦

千葉県るのほな会より、
大病院に感染症患者搬送用のモバイル・アイソレイターおよび人工呼吸器をご寄贈いただきました。大浜会長、大藤副会長並びに会員の皆様方に深く感謝申し上げます。昨年4月病院長を拝命して直後SARS問題が発生し、大病院としては早急な対応を取ることになりました。まず陰圧病棟2床を設置すると共に、外来診察室も病院建物に隣接して準備しました。これは昨年5月2日NHKニュース「おほよう日本」でも放映されました。千葉県のるのほな会の総会にお呼びいただいた、SARS対応、法人化対応状況を含め大病院

の近況につきお話させていただきますました際、寄贈の件が話し合われ、実現していただき感謝に耐えません。今後も千葉県のるのほな会からご寄贈いただいた機器を有効に活用し、SARSその他の感染症患者様の診療に当たっていきなさいと考えております。

大病院は4月1日からの法人化に向けて、診療科再編、新卒後臨床研修制度電子カルテの導入、クリニカル・パスの運用等大きな変革の真っ直中にあります。地域医療連携にも具体的に対応する組織を立ち上げ、千葉県のるのほな会並びにるのほな同窓会の先生方との連絡網を緊密に取っていく所存であります。



感謝状贈呈(平成16年3月4日、右から大藤副会長、大浜会長、藤澤、伊藤事務部長)

大病院が世界に向けて新しい情報発信できるよう、一層の医療レベルの向上と皆様方のご満足いただける大病院を目指して参りますので、今後ともご支援の程宜しくお願いいたします。

同窓会員著書の紹介

服部孝道 編集

「必携神経内科診療ハンドブック」

南江堂 定価6,800円
服部孝道(昭42)



神経内科では他の内科系と異なり、病因論的問題をあとにし、解剖学的観点から患者にアプローチする特徴である。すなわち、まず「どこに病変があるのか」を知ることが第一目標となる。つまり最初に部位診断をつけ、次いで、発症様式、進展様式、経過、既往歴と家族歴、検査データなどから病理診断を下すことになる。部位診断をつけることは、誤診が多くなるだけでなく、無駄な検査を行うことにもなる。

現在はインターネットの時代であり、コンピュータを使うことによって欲しいと思う情報がいくつでも、しかも即座に得られることが可能になった。かつて、情報を得るために多大な時間と労力を必要としたこと

ます進歩、洗練されてきた種々の検査法と治療法の導入にもあるように思われる。

永野俊雄(昭30)著

「軌跡一恩師と友人に感謝をこめて」

(非売品)
小泉準三(昭30)

永野先生からこの著書を送っていただいた時にこの本を一気に読みました。それは、先生と私は同級で二人とも大学の教員で停年退官したと言う同じ軌跡を歩んで来たので、私は先生が現在何を考え、どのような心境に関心を抱いていたからであります。

この本には、先生の自身史、留学、精子に関する国際的な研究成果、千葉大の恩師、友人等についての貴重な記述の他にエッセー的な項目で「名前を変えるだけでは」があります。先生はその項目の中に「国立大学医学部講座の改名にあきれているのは高齢者の戯言であろうか」とお書きになっています。私は先生のご意見に全く同感で戯言ではないと思えます。

○〇〇大学大学院医学(系)研究科(院)だけでも字数が多過ぎると思えますが、更に教員の研究分野名については殊更に字数が多いばかりではなく、日本語の表

神経疾患に関心のある同窓の諸兄にぜひ一読願えたらと思う。

小泉準三(昭30)

「眼で見る 小児のリハビリテーション」

(非売品)
栗原まな(昭52)

現が具体的にどのような研究なのか判らないものもあります。英文で書くことのようになるのかも気になります。大学名や研究領域の名称が長いだけならそれ程害はないが、日常の臨床で困ることは、いわゆるセカンドオピニオンで患者紹介の際に医育機関名簿で調べても、国立大学ではこの先生は基礎が臨床か、内科か外科か、どの診療科に属する先生か判らないことあります。

アメリカの某大学では内

栗原まな著

「眼で見る 小児のリハビリテーション」

診断と治療社 定価5,800円
栗原まな(昭52)



筆者は昭和52年千葉大学医学部を卒業した。卒業時より障害児医療に携わりたれと思っていたのであるが、機会があつて慈恵医大小児科で学ばせていただくこととなった。はじめは発達小

児科学を学び、その後小児神経学を学ばせていただいた。昭和62年から2年間英国で障害児医療に関わる機会を得ることができ、帰国後、現在の神奈川県総合リハビリテーションセンターに勤務して15年が経過した。その間に学んだ小児のリハビリテーションについて記載したのが本書である。

小児のリハビリテーションを行っていく中で、小児が入院でのリハビリテーションを終了して地域での生活に戻っていく際、関わっていく多くのスタッフに役に立つ参考書がほとんどないことに不便を感じていた。従って、本書は、リハビリテーションを専門とする医師を対象として書いた本ではなく、リハビリテーションの素人である小児科医、看護師、保健師、教師などを対象として書かれている。小児の発達を促していく側面から、リハビリテーション専門医でもある小児科医が書いた本で、小児科学とリハビリテーション医学の中間的視点で書かれている。はじめの部分にリハビリテーション医学の基礎的なことと、小児の成長・発達について記載した。後半はリハビリテーションを実際にどのように行っているかについて、症例提示を行いながら記載した。リハビリ

テーションスタッフの役割を紹介した後に、疾患別にリハビリテーションの内容を詳しく紹介しているが、普段それ程は眼にすることがないと思われる小児のリハビリテーションの実地風景を、少しでも身近に感じられるように、写真を多く載せた。疾患別に記載したのは、言語障害、脳性麻痺、精神遅滞、汎汎性発達障害、注意欠陥/多動性障害、てんかん、脳血管障害、急性脳炎・脳症、頭部外傷、脳腫瘍、二分脊椎、脊髄損傷、ギランバレー症候群、筋疾患、神経皮膚症候群、変性疾患、重症心身障害の各疾患である。脳性麻痺のリハビリテーションに関する本はいろいろ出版されているが、その他の疾患に対する小児のリハビリテーションについて書かれた本は多くはない。特に、頭部外傷、脳血管障害、急性脳炎・脳症といった後天性脳損傷は、総合リハビリテーションセンターとしての機能を最大に発揮できるために、私達が最も力を入れて取り組んでいる疾患である。家族への支援、社会復帰(復学)を含め、後天性の障害に対するリハビリテーションに重点が置かれている。本書が障害をもった小児の診療や機能改善の役にたつことができると幸いである。

永井友二郎(昭16)著
「人間の医学」への道

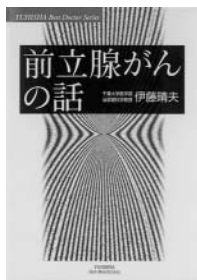


この度16年度のはな同窓会賞功労賞を受けられた永井友二郎先生が、「医者中心の医療」から「病人中心の医療」への実践運動を通して、「人間、死ぬときは苦しくない」との臨死体験から警世の書(290頁)を出版された。人間と歴史社(〒101-0062 千代田区神田駿河台3-1-7) Fk103152827180) 著者は昭和16年12月本学卒、17年1月海軍軍医中尉任官、ミッドウェイ・ガダルカナル作戦に参加。九死に一生を得て、20年12月第二内科に入局、成田赤十字病院内科医長を経て32年三鷹で開業。科学優先の医学のみでは「病む人」は救えないと痛感され、開業医仲間でお互いの胸を借りて「人間の医学」を研鑽しようと同志を募り、昭和38年に「実地医家のための会」を旗揚げされました。爾来

人間と歴史社 定価2,000円
渡邊 武(昭27)

40年、全国からの有志による毎月の例会は欠けることなく、機関誌「人間の医学」も20巻を越え2万頁。一方この間、厚生省医事紛争委員長、文部省「21世紀へむけるの医学と医療」委員、日本医師会生涯教育制度化検討委員長、日本プライマリ・ケア学会会頭など歴任。著書は4部からなり、「戦争の遺したものの」、「人

伊藤晴夫著(昭39)
「前立腺がんの話」



わが国において、前立腺がんは、発生率・死亡率ともに極めて低い疾患でしたが、現在は両者ともに急上昇しています。あるデータでは1990年からの25年間で死亡率は約4倍になり、その増加率は全悪性腫瘍のなかでも第一位であると推定さ

間の医学」への道、「死をみとる医療」「私の死生観」死ぬときは苦しくない」それぞれに貴重な体験に基づいた記録に深い感銘をおぼえました。

「医療はサイエンスとアートの両輪から」を常に mottoとされてきた先輩は、今年86歳、ますます矍鑠そのもので、毎回の例会に出席され、感想など自らメーリングで意見交換されておられます。

ぜひ医療者すべての方々に一読をお勧めいたします。なお、著書は本学図書館事務局へ寄贈されました。

悠飛社 定価1,600円
市川智彦(昭59)

れています。また、少量の採血だけで測定可能な良い腫瘍マーカーであるPSAが普及したことより国民的に関心が高まってきました。さらに、2003年には前立腺がんに関する二つの大きな出来事があり一挙に注目が集まりました。その一つは、天皇陛下が前立腺がんの手術を受けられたことです。もう一つは、ある大病院における前立腺がんの腹腔鏡手術で、一人の男性が死亡し、泌尿器科の医師が3

人逮捕された事件です。このため、前立腺がんを心配して泌尿器科のみでなく内科などを受診する患者さんが急増しています。

他の疾患と同様、前立腺がんも早期発見・早期治療が大切です。予防はさらに重要で、そのためには患者さんの側でも、前立腺がんについて理解しておく必要があります。特に、前立腺がんは他のがんに比較して際立った特徴がありますので、その特色を知っておくことが重要です。この上で、その病態や予防法・診断法・治療法についてできるだけ正確な情報を持つことが望まれます。前立腺がんの診断法は腫瘍マーカーであるPSA、超音波をはじめとする各種画像診断など最近急速に進歩しています。治療法は手術、放射線療法、ホルモン療法が主となりますが、それぞれの方法の中にも多くの種類があります。また、この3種以外にも種々の治療法が研究されています。また、患者さんの側にも、腫瘍の悪性度、進行度以外にも、年齢・合併症・さらには人生にたいする考えかたなど多彩な要因があります。これらの組み合わせを考慮すれば、治療法には極めて多くの選択肢があることが理解されます。このようなわけで、

インフォームド・コンセントに際して患者さんが治療法を主体的に選択するためには、患者さん自身が病気についての正しい知識を持っていることが必要です。

前立腺がんへの関心が高まってきており、中高年の男性が集まると話題は腫瘍マーカーであるPSAのことになるとまで言われていますが、いまだ前立腺がんについての知識が一般に普及しているとは言えません。このようななかで、本書は物語風に話をすすめながら知らないうちに前立腺がんの正確で専門的な知識を得られるように工夫されています。全体は182ページであり、次のような7章に分かれています。序章：前立腺がんをめぐる出来事、第1章：前立腺がんとは何か？、第2章：前立腺がんの検診、第3章：がんの病期と治療法、第4章：がん治療の現場から、第5章：がん治療の最前線、終章：前立腺がんの予防と健康寿命。このように、特に序章と終章はユニークです。患者さんとその家族だけでなく、一般の方々も、抵抗なく読むことが出来るように非常に役立つものと考えます。さらに泌尿器科をはじめ内科などの医師にとっても参考

ク ラ ス 会

るのほな三七会
(昭37)

平成15年の37年卒クラス同窓会は静岡県在住の吉川正宏、満野博章、中山博が幹事を担当し、行事内容もいつもと違うように知恵を絞った。

第1部は返信葉書に出欠だけでなく、「目下時間と精力を注ぎ込んでいる事」、「お薦めの本・面白い本」の2項目についてアンケートを取った。返答率は70%、やはり残日感覚が多いがこれからと言う人も少なくなく、元気づけられた。

第2部は満開の桜を眺めながら箱根路の9時間ハイキング(瀬川譲元山岳部の植物解説付き)。15年4月19日(出)、参加者17名。その晩箱根宮の下の和風温泉旅館に泊まり、14名にて木々に囲まれた湯船に浸かりながら歓談、宴会はいつもの如し。翌日は箱根湿生花園見物、昼過ぎに現地解散。

第3部メインイベントの37年卒同窓会を6月28日(出)午後6~9時、東京パレスホテルにて開催、39名が集まった。本来なら静岡県に

お招きすべくと思っただけ、出席率が低く、幹事が東京へ出向する事にした。宴

会に先立ち千大眼科安達恵美子前教授の紫綬褒章受章祝賀会を行い、続いて「眼

話」と題したご講演を拜聴した。モネの加齢による色彩の変化や夏目漱石や樋口一葉の眼、

名画「カサブランカ」のワンシーンなど多項目わたり、眼科的分析をした非

常に面白いお話だった。宴会ではアンケートを参考にスピーチは6人に抑え、歓談の時間を多くした。熱気は途絶えることなく、閉会の9時を過ぎた二次会迄続き、11時解散となった。今年より当会を「るのほな三七会」と称する事を決議した。

(中山博)



五 四 会

(昭54)

卒後25周年を平成16年3月20日夕方6時より銀座にて祝いました。昭和48年入学、54年卒業を主なメンバーとし、この間机を並べて学んだ学友が一同に会しました。場所は銀座東部ホテル2階芙蓉の間にて、41名の参加者を得ました。活躍の場が違うとは言え、話せば

昔と変わることなく、大学時代の思い出がよみがえってきます。ただし、頭髪も真っ白から未だに黒々とした者など、これだけは変わった者変わらぬ者様々です。

五四会は先日還暦を迎えたばかりの松原公護君が乾杯の音頭を取り開宴。立食形式のため、久しぶりに再開した旧友との会話が会場全体でにぎわいました。しばらくの懇談の後、千葉大学フロンティアメディアカル

工学研究開発センター教授に就任した龍岡穂積君から現状説明を受け、皆で祝しました。その後は各自持ち時間一分の制限を設け、参加者全員から近況報告をしてもらいました。開業での苦労話、近く開業することの紹介、医師の募集、老眼で手術に困る話など話題豊富な報告会となりました。

特に女性陣は元氣そのものであり、毎年一年ずつ若返るとのたまうも老眼鏡は放せないA女史、「今でも医進の学生で通用する」と言われ喜んだB女史、「白内障と骨粗しょう症は是非うちで」と宣伝する夫婦で

眼科と整形を営むC女史など、年が話題になるのもやはり卒後25年の故でしょうか。最後の報告者となった萬伸子(旧姓日下部)女史

の話では、「聴診器を患者にあてながら息絶えた九十歳を超えた医師」の例が取り上げられ、大半が五十歳前後の参加者が今後どのようにな人生を歩むのか各自考えさせられる内容でした。

「予想外」に時間を超過する者が一人もなく、予定通り報告会を終了し、その後参加者一同記念撮影となりました。閉会の辞は島田歌子女史が述べ、会員一同の健康と数年後の再会を祈念し、不肖杉田の一本締めでお開きとなりました。ホテルから少し出たところで、はなみずきの街路樹が今まさに咲き始め、その白い花が街頭に照らし出され、それはうつくしいものでした。

25周年の出席者は、五十嵐忠彦、石川広巳、石毛俊行、今関文夫、大竹明、岡田修、長雄一、長真理子、梶川工、栗原正利、軍司祥雄、小林進、近藤福雄、齊藤正仁、齊藤

博明、島田歌子、下条直樹、白土英明、杉浦信之、杉田克生、鈴木良一、角南祐子、田川雅敏、高田彰、高田郁子、龍岡穂積、鶴田好孝、永瀬裕三、中村真人、難波宏樹、野本正嗣、林文、林北見、瀧崎恭一、松林巖、松原公護、宮崎泉、宮本恒彦、諸田英夫、山崎正子、萬伸子の41名。

(杉田克生)



各 地 の ほ な 会 だ よ り

栃木のほな会

平成16年度の栃木県のはな会は平成16年1月22日、宇都宮市ホテル・ニューイタヤに渡辺武るのほな同窓会・会長と先臨応用外科学・落合武徳教授をお迎えして盛大に行われた。

会は坂田早苗司会により、元会長故高村良平先生への黙祷に始まり、柴崎晃会長代行のご挨拶の後、塩田彰郎先生の会務報告と続いた。次いで会長選出となり、柴崎晃先生が第五代の栃木のはな会の会長に選出された。

講演は大井利夫先生座長のもと、渡辺武るのほな同窓会長による「るのほな会情報」と落合武徳教授による「千葉大学医学部最新の



会長同志の堅い握手



創刊号出版記念祝賀懇親会



落合教授の特別講義

がり9時過ぎ、来年、また
会おうと散会した。

出席者(敬称略)

- 澤田仔夫(専23)・水沼三郎(専23)・師尾武(昭24)・片山一郎(昭25)・糸井久雄(昭26)・柴崎晃(昭28)・五味洵一(昭31)・和田康敬(昭32)・坂田早苗(昭34)・塩田彰郎(昭35)・崎尾秀彰(昭44)・杉田敏夫(昭50)・森偉久夫(昭51)・大宮安紀彦(昭53)・深沢一雄(昭55)・大井利夫(昭35)・田代重彦(昭43)・須田啓一(昭52)・高原正信(昭57)・門馬公経(昭42)・本多陸人(昭42)・福田武準(昭42)・斎藤弘司(昭43)・山西友典(昭57)・明石康三(昭32)・星野聡(昭43)・川村功(昭43)・早乙女勇(昭48)・木内信二(昭48)・山崎一馬(昭51)・西川侃介(昭35)・奥山和明(昭45)・植松武史(昭55)・一瀬雅典(昭62)・外浦功(平6)・北林宏之(平12) (坂田早苗)

山梨あのはな会

平成15年7月9日に、山梨あのはな同窓会が甲府市の「古名屋ホテル」で、会員34名中16名の出席で開催



今回の支部総会の席で、

長年にわたり山梨あのはな会の会長を務められました佐々木芳岡先生が勇退されました。出席の会員一同、佐々木先生の長年のご尽力に感謝し、また労をねぎらいました。新会長には、横山宏先生が就任され、ご挨拶がありました。当日は、大学からのゲストはありませんでした。今回、新しく参加された古屋好美先生(昭53)から自己紹介を含めてご挨拶がありました。また、同先生は、身延保健所長に就任されており保健所長としての職務

についてスピーチがありました。東海地震への備え、過疎地域での医療の問題、エイズやSARSへの対応、など保健所がかかわる諸問題があり、保健所の役割の重要性や地域医療での医療機関との連携の必要性など、会員一同興味深く拝聴いたしました。幹事(中澤肇、相原正男)より会務報告・会計報告の後、懇親会では、出席の会員一人一人が近況を話し、また、なつかしい思い出も出て、なごやかなひとときを過ごすことができました。

当日出席者

- 佐々木芳岡(専19)、原山嘉彦(専24)、横山宏(専25)、土屋和子(専27)、保坂達(専27)、赤星至朗(昭34)、塚原重雄(昭36)、山角博(昭36)、三井静(昭38)、清水天(昭39)、山口正敏(昭39)、中澤肇(昭52)、古屋好美(昭53)、鶴田好孝(昭54)、相原正男(昭56)、会田薫(昭56) (中澤肇)

出張セミナーのお知らせ

千葉大学大学院医学研究の教官が、左記の企画に
関して、出張セミナーを開催することが出来ます。
同窓生の皆様各位あるいは支部単位などでの開催の希望がありましたら、同窓会本部事務所または企画者へ直接お問い合わせください。患者様やそのご家族を集めた場での開催でもよろしいです。

☆☆☆☆

「ミクロの世界からのメッセージ」

講師：千葉大学大学院 医学研究院 病原分子制御学 教授 野田公俊

主旨：私たちの住む地球上には、人間の肉眼では見ることのできない微細な「ミクロの世界」が存在しており、小さな生き物が住んでいます。彼等は常に私たちに様々なメッセージを送って来ています。私たちは、それを上手に利用して豊かな日常生活を築き上げて来ました。しかし、正しく対応しないと、想像を絶する脅威を受

☆☆☆☆

「教育アカデミー市民講座ー水そして生命・健康を考える集い」

講師：千葉大学大学院 医学研究院 環境影響生化学 講師 喜多和子 教授 鈴木信夫

主旨：私達が今飲んでいる水は、私たちのいのちの維持にどのように関係しているのでしょうか。多摩川の水質や飲料水に関する生命科学研究をしている実験現場から報告いたします。本講座は、私たちの健康に関する水を基本とした生活必須情報のネットワーク作り

メンタルヘルスセミナー

現代は様々な方面で危機管理が望まれております。精神面から現代社会を見直すことも一法です。そこで、来春、都内において標記のセミナーを開催する予定です。日本予防医学リスタマネージメント学会(JSRMPM)の協力でいきます。企画内容は未定です。学校医や産業医からの提言などの発表希望や招待講演のご紹介等様々な提案を歓迎します。

問い合わせ先 TEL/FAX 043-226-2009

Email: nobuo@faculty.chiba-u.jp

問い合わせ先 TEL/FAX 043-226-2008

Email: nobuo@faculty.chiba-u.jp



特定非営利活動法人 「千葉健康づくり研究ネットワーク」設立

伊藤 晴夫 (昭39)

現代医療の技術革新には目覚ましいものがあります。分子生物学的な研究や、数理学的な研究が疾病に対する新しい視点を切り開き、診断・治療手法の発達を促進しております。同時に医療の恩恵を受ける側の意識も変化し、より高い水準の医療を待ち望んでおります。最近提唱されているティラーメイド (オーダーメイド) 医療こそこのようなシーズとニーズの接点に位置づけられると考えます。このティラーメイド医療を身近なものにするにはいくつかのハードルがあると思われま

す。患者様ひとりひとりに合った医療を提供するためにはまずひとつひとつの治療法の有効性を実証していかなくてはならないからです。しかし、現在、診断・治療法の検証に時間と費用がかかること、および被験者の参加に偏りが生じる点が指摘されております。良質な臨床試験を効率的におこなう必要があるわけです。このたびこのような臨床試験の質的向上と効率化、

ました。この特定非営利活動法人では、社会に対する啓蒙活動のほか、ティラーメイド医療に生物学的な根拠を付加する基礎的研究や医療機器の開発に対する助成活動の他、研究者の知的所有権を守るため特許取得支援ま

同窓会名簿の作成に関するお知らせ

一、17年1月第1回調査カード発送、17年3月第2回調査カード発送、10月発行

二、会員の方々は住所変更などありましたら、お知らせ下さい。

三、戦没同窓生に関する情報についてもお知らせください。

一橋正道千葉大学名誉教授からのお手紙より

「東大での戦没同窓生(医学部)の調査及び建碑の記録をお送りします。東大昭和29年卒業生有志が中心になって実現した事業であり、同じ人達が卒50年を記念して作った文集「ただひとつ」に載せられたものです。人脈がきれていて、難しい仕事ですが同窓会が努力してはと考えています。

でも視野に入れた事業を行ないたいと考えております。このような事業をおこなうために、多数の先生のご参加をお願いできればと存じます。今後ともよろしくご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

記録誌より

東京大学では、戦後半世紀を経た今でも、第二次世界大戦中に同窓生のだれがどこで死んだか、その全容は不明のままである。

戦争末期の昭和18年9月に学生の徴兵猶予が停止され、その年の10月21日には神宮外苑競技場で出陣学徒壮行会が行われた。19年10月には徴兵年齢が満18歳に引き下げられて多数の学徒が戦場に赴き、戦死者は急増した。徴兵が猶予されていた医学部でも、戦争末期には卒業が繰り上げられ、卒業の二日目に入隊して、医師の不足していた最前線に送られ、戦死者が急増した。

翌22年の12月に東大学生自治会が東大の戦没学生の手記『はるかなる山河に』を編集したところでも、戦没者は全学部で約200人しか判明していなかった。

この被占領下の時代でも、学内戦没者を悼む声は覆いがたく、東大構内に東大戦没学生の記念碑『わだつみの像』を建立する計画が進められた。南原総長もいったんはこれに賛成したが、東大評議会はこれを否決し、

各地の大学で戦没同窓生の調査と追悼碑建立の動きがあり、国立大学でも東北大学、福島大学、小樽商科大学が立派な追悼碑を建設した。慶應義塾、早稲田、法政、立教、自由学園などの各大学も建碑しているが、東大ではその動きはなく、ようやく1993年に吉川弘之総長が大学史資料室に調査を依頼し、その結果が1998年に東大出版会から刊行された。この報告書『東京大学の学徒動員・学徒出陣』によると、東大では学徒出陣を含めて、推定2400人以上の戦没者を出したとされているが、そのうち約1700人の姓名

が記されているにすぎない。三年前に私たちはこの報告書を読んで大きな衝撃を受け、直ちに追悼基金を組織した。そしてほぼ60歳以上の医学部卒業生数千人に手紙を送って事業への参加を求めるとともに、医学部戦没者の調査に着手した。

私たちは少なくとも医学部について戦没の全容を明らかにし、戦争の世紀といわれる20世紀が終わる前に、これを碑に刻んで学内に建て、長く歴史に記録したいと考え、七百余名の参加者を得て、同窓会鉄門倶楽部および医学部との交渉を始めた。紆余曲折はあったも

の、鉄門倶楽部は学内への建碑を決議した。しかし、医学部教授会はいまだにこれを承認していない。私たち基金世話人は、この事業に参加した世代がすでに高齢であることから、過渡的方策として、大学の門前に建碑することに決し、2000年5月27日には正門前の民有地に東大全学部戦没者のための碑を建て、2001年5月27日には弥生門前の民有地に医学部戦没者のための碑を建立した。いずれも東大五

月祭の当日で、多くの参加者があった。現在まで232名(うち原爆で21名)が判明している。

掲示板

・講演会
仮題 「脳死・臓器移植に関して」
講師 澤口重徳 (曹洞宗正覚寺住職)
日時 平成16年6月15日(火) 17時30分〜19時
場所 国立病院機構千葉医療センター (旧国立千葉病院)

第98回 医師国家試験成績

| | | |
|-------|----------------|-------------|
| 試験日 | 平成16年3月20日(出) | 参考 |
| | ・21日(日)・22日(月) | 国立 |
| 合格発表 | 平成16年4月22日(木) | 合格者 4029 |
| 受験者 | 110 (新卒者99) | 合格率 90.3% |
| 合格者 | 101 (合格率91.8%) | 全国 合格者 7457 |
| (新卒者) | 97 (合格率98.0%) | 合格率 88.4% |

亥鼻祭開催

今年度の亥鼻祭実行委員会委員長を務めております医学部4年の小西孝宜と申します。今回は、あのはな同窓会報の紙面をお借りして、2004年度の亥鼻祭の開催についてお知らせいたします。

昨年10年ぶりに開催された亥鼻祭は5000人の方々にいらしていただき、大成功をおさめました。先生方から多大な寄付やたくさんの方の暖かい応援の声を頂いたことは実行委員会の大きな励みとなりました。本当に有り難うございました。

今年も亥鼻祭を通して亥鼻キャンパスを盛り上げていこうと、多くの活気に満ちた学生が集まり、11月の



亥鼻祭に向けて活動しております。亥鼻祭を行うことで、ともに亥鼻キャンパスで学ぶ医学部・看護学部の学生が学部や学年を越えて一体となり、本キャンパスの活動と魅力を亥鼻に携わってきた方々や地域の方々と共にしていきたいと考えています。

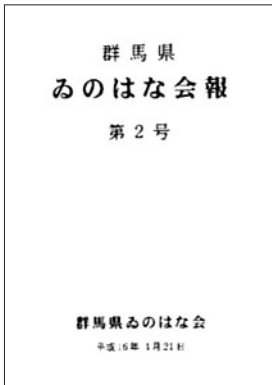
今年のテーマは『COLORS』亥鼻を知ってください』となりました。この『COLORS』という言葉は、亥鼻にいる学生一人一人の個性の集まりを意味しています。幅広い活動をしているたくさんの方の学生を、亥鼻祭というひとつのベクトルに向け、学生それぞれカラーを存分に発揮できる場をつくりたいと考えています。学生の色が集まってきた虹をつくりだすとともに、絵の具のように色を重ね合わせて新たな色が生まれる可能性を探っていきたく考えます。そして、亥鼻祭に来てくださる方々に今の亥鼻というものを知っていただきたいと考えております。

亥鼻祭開催のために、あのはな同窓会の皆様のご支援、ご協力をよろしくお願

いたします。ご多忙かと存じますが、ぜひ秋には亥鼻祭に足を運んでくださるよう重ねてお願い申し上げます。

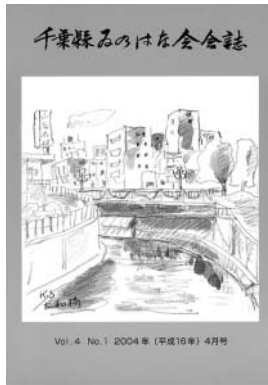
群馬県あのはな会

| 目次 | |
|------------|----|
| 群馬県あのはな会会報 | 1 |
| 群馬県あのはな会会報 | 2 |
| 群馬県あのはな会会報 | 3 |
| 群馬県あのはな会会報 | 4 |
| 群馬県あのはな会会報 | 5 |
| 群馬県あのはな会会報 | 6 |
| 群馬県あのはな会会報 | 7 |
| 群馬県あのはな会会報 | 8 |
| 群馬県あのはな会会報 | 9 |
| 群馬県あのはな会会報 | 10 |
| 群馬県あのはな会会報 | 11 |
| 群馬県あのはな会会報 | 12 |
| 群馬県あのはな会会報 | 13 |
| 群馬県あのはな会会報 | 14 |
| 群馬県あのはな会会報 | 15 |
| 群馬県あのはな会会報 | 16 |
| 群馬県あのはな会会報 | 17 |
| 群馬県あのはな会会報 | 18 |
| 群馬県あのはな会会報 | 19 |
| 群馬県あのはな会会報 | 20 |
| 群馬県あのはな会会報 | 21 |
| 群馬県あのはな会会報 | 22 |
| 群馬県あのはな会会報 | 23 |
| 群馬県あのはな会会報 | 24 |
| 群馬県あのはな会会報 | 25 |
| 群馬県あのはな会会報 | 26 |
| 群馬県あのはな会会報 | 27 |
| 群馬県あのはな会会報 | 28 |
| 群馬県あのはな会会報 | 29 |
| 群馬県あのはな会会報 | 30 |



千葉県あのはな会

| 目次 | |
|------------|----|
| 千葉県あのはな会会報 | 1 |
| 千葉県あのはな会会報 | 2 |
| 千葉県あのはな会会報 | 3 |
| 千葉県あのはな会会報 | 4 |
| 千葉県あのはな会会報 | 5 |
| 千葉県あのはな会会報 | 6 |
| 千葉県あのはな会会報 | 7 |
| 千葉県あのはな会会報 | 8 |
| 千葉県あのはな会会報 | 9 |
| 千葉県あのはな会会報 | 10 |
| 千葉県あのはな会会報 | 11 |
| 千葉県あのはな会会報 | 12 |
| 千葉県あのはな会会報 | 13 |
| 千葉県あのはな会会報 | 14 |
| 千葉県あのはな会会報 | 15 |
| 千葉県あのはな会会報 | 16 |
| 千葉県あのはな会会報 | 17 |
| 千葉県あのはな会会報 | 18 |
| 千葉県あのはな会会報 | 19 |
| 千葉県あのはな会会報 | 20 |
| 千葉県あのはな会会報 | 21 |
| 千葉県あのはな会会報 | 22 |
| 千葉県あのはな会会報 | 23 |
| 千葉県あのはな会会報 | 24 |
| 千葉県あのはな会会報 | 25 |
| 千葉県あのはな会会報 | 26 |
| 千葉県あのはな会会報 | 27 |
| 千葉県あのはな会会報 | 28 |
| 千葉県あのはな会会報 | 29 |
| 千葉県あのはな会会報 | 30 |



ます。尚、「企画内容の概要と寄付のお願い」について、同封致しましたのでご覧下さい。

第80回千葉医学会学術大会開催のご案内

日時：平成16年9月6日（月）16時10分～18時30分（予定）

場所：千葉大学医学部附属病院 3階 第1講堂

学術大会 会長 福田 康一郎

特別講演

千葉大学第二外科が歩んできた食道外科の歴史と実績

演者：磯野 可一（千葉大学 学長）

司会：濱野 恭一（東京女子医科大学 名誉教授）



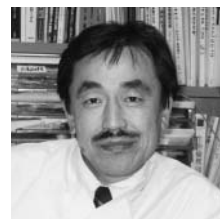
磯野 可一 学長

招待講演

21世紀 COE が目指す食道癌治療の新しい展開

演者：島田 英昭（千葉大学大学院医学研究院先端応用外科学 講師）

司会：深尾 立（千葉労災病院 院長）



島田 英昭 先生

●本講演は日医生涯教育講座に申請予定です

●参加手続き及び費用は不要 多くの皆様のご参加をお待ち申し上げます

問い合わせ：千葉医学会

TEL: 043-202-3755 FAX: 043-202-3757

e-mail: info@c-med.org http://www.c-med.org

平成16年度 医学部入学者

〔山形〕奥山 翼
〔茨城〕安部 涼平
小澤 達也 菊池 賢
〔群馬〕須賀 孝慶
丸田 享
〔埼玉〕亀井 未央
木下 拓
〔千葉〕荒澤 孝裕
石神 智行 石橋 克彦
大谷 龍平 久住 友紀
工藤可奈子 越塚 慶一
小島 俊輔 芝 大樹
島崎 怜理 末廣 健一
竹本 直輝 田中久美子
中川 萌以 乗本 将輝
平島 聡子 山地 芳弘
横山 昌幸
〔東京〕穴澤 梨江
新井 隆之 安藤沙季子
池田 早希 石渡由美
市村 明 井出真太郎
伊東 大祐 稲垣 千晶
今野 香織 岩間 敬子
植田 真依 奥野 理奈
奥谷 孔幸 小野 久子
片岡 惇 片桐 聡
勝山 陽太 川口 留以
木村 青児 國分 宙
小坂健太郎 小嶋 理恵
小浜信太郎 齊藤 暁人
策 愛子 下村 巖
杉浦 藍 高橋 希
田久保和也 恒岡 大輔
常山 篤子 寺中亮太郎
時政 聡 富永 真以

平成16年度 大学院医学薬学府入学者

〔環境影響生化学〕呂軍、
紀仲秋、林宏〔分子細胞薬
理学〕梅村啓史、福岡紘一、
鳥谷部武志〔加齢呼吸器病
態制御学〕藤川文子、水野
里子、篠塚成順、清水秀文、
小笠原隆、家里憲〔循環器
病態学〕折茂政幸、康田典
鷹、高橋聖尚、大野雅樹、
上田和孝、檜作薫、岡田将
後藤基泰、小川恭秀、山崎
道子、伊藤薫〔老人精神医
学〕橋本佐、張琳〔疼痛・
緩和・周術期医学〕平澤瀬
良美、三村文昭、西村法子、
田村美貴、西村祥一、北村
祐司〔公衆衛生学〕FABI-
ANA CERVIGNI、杉本
貴司、井上寛規〔感染生体
防御学〕楊子焱〔環境生命
医科学〕相田圭子、中谷祐

金子 絵里 榊 真一郎
茂田 啓介 辻 正樹
柳 嘉典 山田 康隆
〔山梨〕平賀 聡
〔新潟〕安達 哲史
〔富山〕岡田玲緒奈
〔新潟〕安達 哲史
〔静岡〕小川 知佳
〔大坂〕宮崎 頌子
〔愛知〕呂 成九
〔香川〕香川 悠
陶山謙一郎
〔鹿児島〕杉浦 正洋

貴子〔高分子活性学〕長谷
川太一〔泌尿器科学〕木納
美香〔病態検査医学〕清川
巖〔放射線腫瘍学〕劉翠華、
伊藤憲佐、松本孔貴〔胸部
外科病態学〕山田義人〔口
腔科学〕野村仁美、石上享
嗣〔耳鼻咽喉科学〕國井直
樹、服部百合恵、山本陸三
朗、清水恵也〔整形外科学
守屋拓朗、宮下智大、林志
雄、門田領、古志貴和、松
木恵、永嶋良太、萬納寺誓
人、折田純久、浅野由美
〔形態再建医学〕金沢雄一
郎〔消化器病態学〕久保田
教生、鈴木拓人、松山真人、
菅原武明、小林倫子、太和
田勝之、奥川英博、張凱宇、
劉洋〔肝胆脾外科学〕西田
洋文、豊田亮彦、三浦世樹

宮澤康太郎、田村英彦、河
野宏彦、飯田文子、野村悟
松浦馨、中村力也、岡村大
樹、藤本浩司〔小児病態学〕
Eduardo Jose Campos
Alberto、深沢千絵、内川
英紀、江畑亮太〔小児外科
学〕松浦玄〔免疫発生物学〕
HOSSAIN MOHAMMAD
BELAYAT、岩村千秋、
原田理代〔分化制御学〕
SHEFAT REHNUMA〔分
子統合生理学〕張薇、鄧本
祥〔自立機能生理学〕竹内
和秀、鳥居深雪〔視覚病態
学〕白戸勝、岡田恭子、中
村洋介、上原淳太郎、東條
直貴、柴玉珠〔神経機能統
御学〕永野修〔神経機能病
態学〕高橋宏和、中田美保、
伊藤喜美子、劉志、山本達
也、田村典子、榊原優美、
山中義崇、伊藤敬志、白井
和佳子〔遺伝子生化学〕伊
藤加奈子〔分子腫瘍病理学〕
藤谷川毅〔先端外科学〕村
長谷川毅〔先端外科学〕村
上健太郎、小林豊、加賀谷
暁子、成島一夫、青柳智義、
本島柳司、織田暁寿、成本
壮一〔臓器不全病態学〕森
田泰正、大谷俊介、大島拓
横井健人〔細胞治療学〕茂
田あずさ、保坂博章、小菅
清彦、張先雅、古田俊介、
本城聡、小田佳世、若新英
史、松澤陽子、阿部大二郎

羽田克彦
〔神経生物学〕羽田克彦

人事異動

教授就任
遺伝子機能病態学(旧泌尿
器科学)
市川 智彦(昭59)
(同助教授より)
基礎病理学(旧肺研病理)
中谷 行雄(横浜市大昭53)
(横浜市大助教授より)
企画情報部(旧医療情報部)
高林克己(昭50)
(同助教授より)
助教授昇任
環境労働衛生学(旧衛生学)
諏訪園 靖(平6)
(同助手より)
講師昇任
分化制御学
有馬 雅史(独協医大昭61)
(同助手より)

千葉県職員異動

特別職
崎山 樹(昭39) 病院局
長(がんセンター)
渡辺 一男(昭41) センター
長(副センター)
館崎慎一郎(昭46) 診療部
長(整形外科部長)
田中 尚武(昭59) 婦人科
部長(千大・婦人科)
西川 泰世(昭59) 主任医
長(医長より)
滝口 伸浩(群馬昭59) 主
任医長(医長より)

細胞治療学

中川 典明(旭川医大昭60)
(第二内科助手より)

眼科重粒子線治療学
水野谷 智(金沢大平2)

国立千葉病院
(眼科医長より)

心臓血管外科(旧第一外科)
石田 厚(昭61)
(臓器制御外科
学助手より)

神経内科
朝比奈正人(滋賀医大昭62)
(神経病態学助手より)

集中治療部
松田 兼一(平元)

こどものこころ診療部
篠田 直之(金沢大平2)
(精神科神経科助手より)

機能ケノム学寄附講座
二村 好憲(信州大平2)
(同助手より)

伊丹(伊藤)真紀子(昭59)
主任医長(医長より)

貝沼 修(昭61) 医長

笠川 隆玄(平6) 医長

高橋 俊之(平7) 医長

穴戸 忠幸(山梨平8) 医長

森 幹人(医歯平9) 医長

救急医療センター
沖本 光典(昭50) 検査部
長(第四診療科部長)

松本 京一(昭50) 第四診
療科部長(主任医長)

古口 徳雄(昭60) 第三診
療科部長(医長)

浪川 進(長崎平6) 医長

根橋 紫乃(平7) 医長

稲葉 晋(秋田平8) 医長

鈴木 浩二(札幌平9) 医長

高橋 実里(大分平9) 医長

精神科医療センター
浅野 誠(昭48) 医療局
長(診療部長)

こども病院
伊達 裕明(昭50) 病院長

羽鳥 文磨(昭48) 診療部
長(麻酔科部長)

岩井 潤(昭53) 小児外
科部長(主任医長)

亀ヶ谷真琴(日医大昭52)
整形外科部長(主任医長)

工藤 典代(大阪昭52) 耳
鼻咽喉科部長(主任医長)

東本 恭幸(昭59) 主任医
長(医長)

沼田 理(平9) 医長

川副 泰隆(昭59) 主任医
長(医長)

樋口 佳則(平4) 医長

東金病院
潤間 隆宏(昭60) 呼吸器
科部長(千大より)

蓮江 文男(平9) 医長

佐原病院
米田みのり(北大平3) 医長

健康福祉センター長(旧保
健所長)
安藤由記男(昭40) 松戸
(市川)

渡辺 義郎(昭44) 市川
(市原)

児玉(楠水) 賀洋子(昭53)

市原(市川次長)

千葉県職員より退職

鳥羽 剛(昭38) 病院長
がんセンター
吉原 暉文(昭40) 診療部長
長
間山 素行(昭44) 消化器内科部長
平井真紀子(昭58) 主任医
長
廣野 正啓(群馬昭40) 主任医
任医長
山本 直敬(信州昭63) 医長
救急医療センター
八木下敏志行(金沢昭56)
第二診療科部長
精神科医療センター
昆 啓之(佐賀昭62) 医長
循環器病センター
平井 伸治(昭59) 医長
佐原病院
増田一哲(平1) 医長
黒田史文(平4) 医長

千葉市職員異動

千葉市保健所
石川 洋(昭53) 保健所
長(保健所次長)
池上 宏(昭53) 保健所
次長兼健康増進C主任医長
(感染症対策課長)
瀬谷 彰(昭56) 保健指
導課長(保健指導課主幹)

千葉県医師会新役員

(○の中の数字は選任回数最下
段は出身地区医師会名を示す)

会長

藤森 宗徳(昭37) ④千葉

副会長

鈴木 弘祐(日大昭39) ③
鎌ヶ谷

井上 雄元(金沢昭39) ②
市原

理事

三枝 一雄(昭32) ①
君津木更津

守 正英(慈恵昭44) ③
八日市場

中川 利男(昭42) ②千葉
石川 広巳(昭55) ①
鎌ヶ谷

田那村 宏(慈恵昭42) ①
千葉

千葉県地区医師会長

千葉

伯野 中彦(昭37)

八千代
杉岡 昌明(昭37)

印旛
黒田 健昭(昭36)

海上
佐々木 守(昭37)

匝瑳
進(昭47)

新

平成15年度
第3回常任理事会議事要旨

山武
田畑陽一郎(昭46) ①
市原
鎗田 努(昭41)
大学
税所 宏光(昭40)
国立
大塚 嘉則(昭39)

日時 平成16年2月25日
(水)午後3時~5時
30分

場所 千葉スカイウイン
ドゥズ東天紅・天
海の間(センチテ
タワー22階)

出席者 秋葉哲生、大井利
夫、大藤正雄、大浜博利、
沖真澄、小幡裕、加部恒
雄、木内政寛、税所宏光、
三枝一雄、佐藤忠夫、佐
藤通、佐藤甫夫、柴崎晃
鈴木信夫、瀧口正樹、田
中光、道永麻里、村瀬靖
吉川廣和、渡辺武、済陽
高穂

開会に先立ち、渡辺会長
より御挨拶と新役員の紹介
があった。

議案

一、四金会招待について

鈴木理事より提案があり、
承認された。
二、平成16年度行事予定に
ついて
鈴木理事より、定例行事
予定について提案があり、
承認された。

三、平成16年度総会につ
いて
大浜理事より、6月19
日(土)千葉にて開催する旨
提案があり、承認された。

四、学生会員化について
鈴木理事より提案があ
り、原則承認された。会
則の変更を含め、今後具
体化案を検討することと
した。

五、名簿発行について
滝口理事より提案があり、
(株)サトラへの委託等承認
された。

協議事項
一、将来検討委員会報告事
項について
鈴木理事より、委員会
にて検討された会則改定、
新規事業等について報告
があり、協議された。

二、平成15年度予算編成に
ついて
鈴木、済陽、滝口理事
より提案された学生会員
化対策、支部「B」支援、
図書館助成等について協
議された。

三、同窓会館の設立につ

いて
鈴木理事より報告され
た改修、新築等の可能性
について協議された。

報告事項

一、予算執行状況
税所理事より、予算執
行の中間報告があった。

二、同窓会関係
鈴木理事より、5月刊
行予定の同窓会報につ
いて報告があった。

三、大学法人化対応につ
いて
村瀬理事から、大学の
経済的基盤、評価向上に
関する提言報告があった。

四金会
引き続き同所で四金会が
行われた。滝口理事の司会
で、渡辺会長の御挨拶、井
出名誉会長の乾杯御発声に
始まり、和やかに歓談の時
を過ごした。お招きした叙
動者の柿栖米夫先生、佐藤
忠男先生、山崎修道先生、
助教御就任の飯笹俊彦先
生から御挨拶を頂いた。最
長老の宮城和彦先生からも
御挨拶を頂いた。自治会、
亥鼻祭実行委員会代表の学
生諸君からの話題、謝辞も
あり、賑やかな会であった。
小幡副会長の御発声で中締
めとなった。

平成16年度
第1回常任理事会議事要旨

日時 平成16年4月28日
(水)午後3時~5時
30分

場所 千葉スカイウイン
ドゥズ東天紅・天
海の間(センチテ
タワー22階)

出席者 秋葉哲生、大井利
夫、大藤正雄、大浜博利、
沖真澄、小幡裕、加部恒
雄、木内政寛、税所宏光、
三枝一雄、佐藤通、佐藤
甫夫、鈴木信夫、瀧口正
樹、田中光、富田裕、藤
山嘉信、道永麻里、吉川
廣和、渡辺武、済陽高穂

開会に先立ち、渡辺会
長より御挨拶があった。

議案

一、名誉会員の推薦につ
いて
鈴木理事より提案があ
り、承認された。

二、四金会招待について
鈴木理事より提案があ
り、承認された。

三、平成15年度決算案につ
いて
(イ) 決算案について
税所理事より資料に基
づき説明があり、承認さ
れた。積立金拠出可能で

ある旨報告がなされた。
(ロ) 監査報告
秋葉、田中西監事より、
適正である旨、報告がな
された。

四、平成15年度事業計画に
ついて
鈴木理事より資料に基
づき、従来計画の継続に
加え、学生会員編集部助
成、卒後研修助成等の新
規計画について提案があ
り、承認された。

五、平成15年度予算案につ
いて
税所理事より、資料に
基づいた提案につき事業
計画との関連について説
明があり、承認された。

六、あのはな同窓会賞選考
結果について
鈴木理事より、選考結
果について説明があり、
承認された。功労賞の選
考基準について見直すこ
ととした。

七、総会議案について
大浜理事より、平成16年
度総会議案等について説
明があり、承認された。

八、会則の一部改定につ
いて
大藤理事より、資料に
基づき説明があった。一
部継続検討することとし
た。

九、名簿発行について
滝口理事より、資料に

報告事項

基づき説明があり、(株)サ
ラトへの委託契約内容案
等承認された。

同窓会関係

鈴木理事より、5月刊
行予定の同窓会報につい
て、報告があった。

二、亥鼻キャンパス見学会
鈴木理事より、総会に
先立ち標記見学会が開催
される旨、報告があった。

四金会

引き続き同所で四金会が
行われた。滝口理事の司会

千葉大プライマリ・ケアセミナー

平成16年4月25日(日)
東京八重洲ホールにて千葉
大総合診療部主催、卒業・
生涯医学臨床研修部共催に
よる上記セミナーが開催さ
れた。千葉大関係者のみならず、
医師、学生、出版関係者など
関東近縁から定員を超える約60名が参加した。
前半は総合診療部長司会の
元で、会場の前方に集められた
学生を対象に台本なしの症例
検討会が実施された。参加者は
その様子を後から観察し、
学生の意見を聞きながら自由
に発言する形式である。外来で
遭遇

で、渡辺会長の御挨拶、富田副会長の乾杯御発声に始まり、和やかに歓談の時を過ごした。お招きした新名誉会員の伊藤晴男先生、里村洋一先生、表彰御授賞の橋爪壮先生、木内政寛先生、教授御就任の高林克己先生、中谷行雄先生、市川智彦先生、講師御昇任の石田厚先生、水野谷智先生から御挨拶を頂いた。学生代表の諸君からのお話もあり、賑やかな会であった。小幡副会長、渡辺会長の御発声で中締めとなった。

した2症例が呈示され、臨床推論を用いた病歴聴取でどこまで診断に迫れるかについて、和気藹々とした雰囲気の中で活発な討論が繰り広げられた。

特別講演は、元アイオワ大学家庭医療科臨床助教授のラルフクヌッツン医師により、医療制度の変革が与えた米国プライマリケアへのインパクトについて衝撃的な話が披露された。医療が市場原理によって動く米国では、株主利益を最優先する企業の論理により、良心的な医師がより安い賃

金で雇える医師によって容赦なく置き換えられてしまふという事態にまで至っていることに驚かされた。彼自身、病院の経営者が変わっただけで、90日以内に給料25%カットを受け入れなければ解雇するという突然の通達を受け、昨年、彼を含めた家庭医グループは全員職を失ったという。クヌッツン医師は良医として地元ではつとに有名であり、かかりつけ医制度が定着している米国での家庭医大量解雇に地域住民は反対運動を起こしたが、結局、市場原理に押し切られたそうである。この解雇劇によって長年のかかりつけ医を失った住民の損失は計り知れない。

わが国のメディアは米国医療のよい面だけを取り上げる傾向がある。しかし乳児死亡率などのWHOによる米国民の健康水準は、わが国の2倍もの医療費を使いながら世界37位である(日本は世界第1位)。利潤を追求した結果として、軽症患者のみを保険に加入させる「サクランボ摘み」をはじめ、株主へ顔を向けた患者不在の医療を展開している米国医療の陰の部分をもっと知ってほしいと講演は締めくくられた。市場原理は一旦導入されてしまふ

と撤回困難である。わが国でも医療特区における株式会社参入の動きも起こっており傾聴に値する内容であった。

続いてナンシークヌッツン氏によって、自身の職業であるフィジシャンズアシスタント(PA)の現状と展望についての講演が行われた。わが国では馴染みのない制度であるが、医師の管理のもとで診察、検査、処方、お産や麻酔など医師と同等の仕事を行い、家庭医不足の米国でプライマリケアを担う重要な一翼となっているということであった。

同様の職種にナースプラクティショナー(NP)があり、現場のニーズに合わせた研修を行うNPに対して、看護業務を医師の業務へ発展拡大させた制度であるとの説明があった。実際の仕事内容に大きな差はないという。

よい意味でも悪い意味でもプライマリケア先進国アメリカで活躍されているお二方の現場の声は、今後わが国の医療が進むべき道を考察する上で大いに参考となった。(総合診療部長、生坂政臣)

平成16年 医学部卒業生からの御礼

謹啓
陽春の候、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。
先日、私ども九十九名は無事に千葉大学医学部を卒業することができました。ここに報告申し上げますとともに、改めて在学中に賜りましたご厚情へ感謝申し上げます。
つきましては、その感謝の念を卒業記念品として形に残すことにいたしました。千葉大学のはな同窓会にご協力いただき、大学祭等で使用する屋型テント一張を医学部へ寄贈いたしました。
今後、私ども平成15年度卒業生一同は、医師として、また研究者として、医道を各々歩んでいくこととなります。在学中の不勉強を取り戻すべく、一生懸命に努力する覚悟しておりますから、何卒、ご指導・鞭撻を賜りたくお願い申し上げます。
末筆ながら、ご多幸をお祈り申し上げます。
平成16年4月5日
謹白

平成16年千葉大学医学部卒業生一同

千葉医学雑誌80巻 2号目次

総説
中枢神経回路はなぜ再生しないのか 山下俊英 山岸 覚 羽田克彦 藤谷昌司
高度先進医療における寄生虫症: 進化する寄生虫 矢野明彦
人工生物時代の到来と大学人の役割: 危機管理生命科学の創出 鈴木信夫
原 著
Abnormal regional glucose and fatty acid metabolism in patients with ischemic heart disease: assessment by F-FDG-PET, ¹²⁵I-BMIPP-SPECT, and ²⁰¹Tl-SPECT Satoru Watanabe, Yoichi Kuwabara Katsuya Yoshida and Yoshiaki Masuda
肺移植実験モデル:
ラット同種間同性左肺移植技術改良の試み 溝淵輝明 関根康雄 安福和弘 吉田成利 岩田剛和
斎藤幸雄 David S. Wilkes 藤澤武彦
Gemcitabine 外来投与による膵癌術後補助化学療法の検討 外川 明 伊藤 博 木村文夫 清水宏明 安蒜 聡
大塚将之 吉留博之 加藤 厚 宮崎 勝
学 会
第1069回千葉医学会例会・第24回歯科口腔外科例会
報
英国の医学学校における医学教育 杉田克生
編 集 後 記

千葉医学雑誌80巻 1号目次

総 説
遺伝子発現解析に基づく癌ゲノム研究の展開 関 直彦
原 著
腹腔鏡下前立腺全摘除術: 初期7例の経験 市川智彦 小宮 颯 納谷幸男 鈴木啓悦
植田 健 五十嵐辰男 寺地敏郎 伊藤晴夫
話 題
SARS ウイルスはどこから来たのか 白澤 浩
クリニカルプロテオミクスをめぐる最近の知見 野村文夫 朝長 毅
21世紀COE (医学系) プログラム 消化器扁平上皮癌の最先端多戦略治療拠点: 遺伝子治療と重粒子線治療の遺伝子解析に基づくテーラーメイド化 丹沢秀樹 辻井博彦 落合武徳 鍋谷欣市
らいふらしい 明解傷寒論
学 会
第1074回千葉医学会例会・第26回千葉大学循環病態医科学第三内科懇話会
編 集 後 記

平成16年卒業生の卒業後研修先

| 氏名 | 研修先プログラム | 1年目 | 2年目 | 氏名 | 研修先プログラム | 1年目 | 2年目 |
|-------|---------------------|------------------|------------------|-------|----------------------|--------------|--------------|
| 赤木龍一郎 | 武蔵野赤十字病院初期臨床研修 | 武蔵野赤十字病院 | 武蔵野赤十字病院 | 住田智一 | 東京都立墨東病院 | | |
| 有川俊輔 | 千葉大B | 君津中央病院 | 千葉大医学部附属病院 | 関口 縁 | 旭中央病院 | 旭中央病院 | |
| 家 研也 | 国立国際医療センター総合診療 | | | 高田俊彦 | 千葉西総合病院 | 千葉西総合病院 | 千葉西総合病院 |
| 生富公康 | NTT東日本関東病院外科 | NTT東日本関東病院 | NTT東日本関東病院 | 高橋知子 | 旭中央病院初期臨床研修総合診療 | 旭中央病院 | 旭中央病院 |
| 池田憲政 | 千葉大B | 深谷赤十字病院 | 千葉大医学部附属病院 | 高橋龍平 | 聖隷浜松病院基本 | 聖隷浜松病院 | 聖隷浜松病院 |
| 市原広太郎 | 板橋中央総合病院臨床研修病院群基本研修 | 板橋中央総合病院 | 板橋中央総合病院 | 滝嶋葉月 | 千葉大B | 松戸市立病院 | 千葉大医学部附属病院 |
| 伊藤加奈子 | 武蔵野赤十字病院初期臨床研修 | 武蔵野赤十字病院 | 武蔵野赤十字病院 | 竹内和秀 | 済生会横浜市南部病院 | | |
| 伊藤公乃 | 横浜労災病院 | 横浜労災病院 | 横浜労災病院 | 田中 圭 | 松戸市立病院 | 松戸市立病院 | 松戸市立病院 |
| 伊藤裕太 | | | | 田中彩子 | 成田赤十字病院 | 成田赤十字病院 | 成田赤十字病院 |
| 伊藤良浩 | 旭中央病院総合診療 | 旭中央病院 | 旭中央病院 | 田村友作 | 君津中央病院 | 君津中央病院 | 君津中央病院 |
| 今村有佑 | 国立精神・神経センター国府台病院 | 国立精神・神経センター国府台病院 | 国立精神・神経センター国府台病院 | 千田明美 | 横浜労災病院 | | |
| 内川裕美子 | 東京医療センター | 東京医療センター | 東京医療センター | 塚本祥吉 | 成田赤十字病院臨床研修 | 成田赤十字病院 | 成田赤十字病院 |
| 内野康志 | 東京大A | 東京大医学部附属病院 | 国立東京災害医療センター | 坪井さやか | 君津中央病院臨床研修 | 君津中央病院 | 君津中央病院 |
| 宇野秀彦 | 千葉大B | 船橋二和病院 | 千葉大医学部附属病院 | 寺谷俊康 | 徳洲会茅ヶ崎病院 | 徳洲会茅ヶ崎病院 | 徳洲会茅ヶ崎病院 |
| 梅村啓史 | 千葉大B | 成田赤十字病院 | 千葉大医学部附属病院 | 鳥谷部武志 | 成田赤十字病院卒後臨床研修 | 成田赤十字病院 | 成田赤十字病院 |
| 榎原雅代 | 千葉大B | 聖隷横浜病院 | 千葉大医学部附属病院 | 中田泰幸 | 君津中央病院 | 君津中央病院 | 君津中央病院 |
| 遠藤悟史 | 亀田総合病院 | 亀田総合病院 | 亀田総合病院 | 中村美輪 | 千葉大B | 千葉県済生会習志野病院 | 千葉大医学部附属病院 |
| 大岡恵美 | 千葉大A | 千葉大医学部附属病院 | 千葉市立海浜病院 | 中村祐介 | 癌研究会附属病院初期臨床研修 | 東京厚生年金病院 | 癌研究会附属病院 |
| 大熊加恵 | 東京大B | 茨城県立中央病院 | 東京大医学部附属病院 | 東出 香 | 東京都立松沢病院 | 東京都立松沢病院 | 東京都立松沢病院 |
| 岡村愛子 | 千葉大B | 国保松戸市立病院 | 千葉大医学部附属病院 | 西川 牧 | 東京都済生会中央病院内科 | 東京都済生会中央病院 | 東京都済生会中央病院 |
| 岡山 大 | 湘南鎌倉総合病院初期臨床研修 | 湘南鎌倉総合病院 | 湘南鎌倉総合病院 | 野口貴志 | 京都大A | 京都大医学部附属病院 | 京都大医学部附属病院 |
| 小笠原定久 | 千葉大A | 千葉大医学部附属病院 | 君津中央病院 | 原田倫太郎 | 千葉大B | 君津中央病院 | 千葉大医学部附属病院 |
| 折田純久 | 旭中央病院総合診療 | 旭中央病院 | 旭中央病院 | 水室圭一 | 国立千葉病院管理型 | 国立千葉病院 | 国立千葉病院 |
| 片桐 明 | 千葉大B | 松戸市立病院 | 千葉大医学部附属病院 | 広瀬陽介 | 千葉大B | 成田赤十字病院 | 千葉大医学部附属病院 |
| 加藤 啓 | JFE健保川鉄千葉病院臨床研修 | JFE健保川鉄千葉病院 | JFE健保川鉄千葉病院 | 廣野誠一郎 | 国立国際医療センター外科系 | 国立国際医療センター | 国立国際医療センター |
| 金川裕矢 | 国立東京医療センター初期臨床研修 | 国立東京医療センター | 国立東京医療センター | 深沢万敏 | 千葉県立病院群 | | |
| 亀崎秀宏 | 船橋市立医療センター | 船橋市立医療センター | 船橋市立医療センター | 福田香織 | 青梅市立総合病院 | 青梅市立総合病院 | 青梅市立総合病院 |
| 神納光平 | 都立松沢病院 | 都立松沢病院 | | 藤川 陽 | 千葉大B | JFE健保川鉄千葉病院 | 千葉大医学部附属病院 |
| 日下部裕子 | 社会保険中央総合病院 | 社会保険中央総合病院 | 社会保険中央総合病院 | 藤元 瞳 | 国立国際医療センターGeneralist | 国立国際医療センター | 国立国際医療センター |
| 清水彩子 | 国立病院東京医療センター | 国立病院東京医療センター | 国立病院東京医療センター | 別府美奈子 | 旭中央病院総合診療 | 旭中央病院 | 旭中央病院 |
| 小泉賢洋 | 沖縄県立中部病院初期臨床研修内科 | 沖縄県立中部病院 | 沖縄県立中部病院 | 松木悟志 | 千葉大B | 国立千葉病院 | 千葉大医学部附属病院 |
| 公平 誠 | 千葉大B | 深谷赤十字病院 | 千葉大医学部附属病院 | 松本真輔 | 松戸市立病院臨床研修 | 松戸市立病院 | 松戸市立病院 |
| 小西はるひ | 東京厚生年金病院 | 東京厚生年金病院 | 東京厚生年金病院 | 三島有加 | 千葉労災病院卒後研修 | 千葉労災病院 | 千葉労災病院 |
| 近藤裕樹 | 岐阜市民病院 | | | 宮本雄一郎 | 東京大A | 東京大医学部附属病院 | 茨城県立中央病院 |
| 後藤宏顕 | 船橋市立医療センター | 船橋市立医療センター | 船橋市立医療センター | 宮山友明 | 国立国際医療センター内科 | 国立国際医療センター | 国立国際医療センター |
| 斎藤 繭子 | 東京都立荏原病院研修 | 東京都立荏原病院 | 東京都立荏原病院 | 村田 健 | 国立国際医療センター内科 | 国立国際医療センター | 国立国際医療センター |
| 崎川牧子 | 東京大C | 東京大医学部附属病院 | 東京大医学部附属病院 | 森 昌玄 | 千葉大B | 松戸市立病院 | 千葉大医学部附属病院 |
| 佐々木真利 | 日本赤十字社医療センター小児科 | 日本赤十字社医療センター | 日本赤十字社医療センター | 森田久美子 | 国立病院東京医療センター初期臨床研修 | 国立病院東京医療センター | 国立病院東京医療センター |
| 佐塚哲太郎 | 千葉大B | 君津中央病院 | 千葉大医学部附属病院 | 柳 大介 | 千葉大A | 千葉大医学部附属病院 | JFE健保川鉄千葉病院 |
| 佐藤文紀 | 松戸市立病院臨床研修 | 松戸市立病院 | 松戸市立病院 | 柳澤大輔 | 千葉県立病院群 | 千葉県がんセンター | |
| 佐藤雅彦 | 成田赤十字病院 | 成田赤十字病院 | 成田赤十字病院 | 山崎博範 | 千葉大B | 成田赤十字病院 | 千葉大医学部附属病院 |
| 篠田公生 | 千葉大A | 千葉大医学部附属病院 | 国立千葉病院 | 山下未来 | 君津中央病院 | 君津中央病院 | 君津中央病院 |
| 柴田映道 | 国立病院東京医療センター | 国立病院東京医療センター | 国立病院東京医療センター | 山本 憲子 | 沼津市立沼津中央合同臨床研修 | 沼津市立病院 | 沼津市立病院 |
| 柴山 絢 | 旭中央病院総合診療 | 旭中央病院 | 旭中央病院 | 山本裕輝 | 東京歯科大学市川総合病院 | 東京歯科大学市川総合病院 | 東京歯科大学市川総合病院 |
| 島田奈都子 | 東京都立広尾病院卒後臨床研修 | 東京都立広尾病院 | 東京都立広尾病院 | 吉田雅輝 | 千葉大B | 千葉市立青葉病院 | 千葉大医学部附属病院 |
| 清水健一郎 | 国立精神・神経センター国府台病院 | 国立精神・神経センター国府台病院 | 国立精神・神経センター国府台病院 | 米津 慎宏 | 千葉大B | 千葉労災病院 | 千葉大医学部附属病院 |
| 白川 優 | 東京都立広尾病院卒後臨床研修 | 東京都立広尾病院 | 東京都立広尾病院 | 渡辺未歩 | 国立病院東京医療センター卒後研修 | 国立病院東京医療センター | 国立病院東京医療センター |
| 杉山重里 | 東京歯科大学市川総合病院初期臨床A | 東京歯科大学市川総合病院 | 東京歯科大学市川総合病院 | 渡辺好宏 | 国立千葉病院臨床研修 | 国立千葉病院 | 国立千葉病院 |
| 杉山雅彦 | 千葉大A | 千葉大医学部附属病院 | 国立千葉病院 | | | | |

予告・医学文献オンラインアクセスのトライアル

会員各位においてもご案内の通り、電子ジャーナルの普及にはめざましいものがあります。ゐのはな同窓会活動の一環として、会員が医学雑誌（下記リストは一例です）へオンラインでアクセスできるシステムの導入を検討しております。11月に2～3週間程度そのトライアルを行なう予定です。詳細を次号に掲載いたします。ご期待下さい。

担当：遺伝子生化学・瀧口正樹



メディカルオンライン契約ジャーナル一覧(出版社)

| | | |
|--|--|---|
| <p>株式会社日本医事新報社</p> <ul style="list-style-type: none"> ●週刊日本醫事新報 <p>株式会社診断と治療社</p> <ul style="list-style-type: none"> ●外科診療 ●産科と婦人科 ●小児科診療 ●診断と治療 ●チャイルドヘルス <p>株式会社山山堂</p> <ul style="list-style-type: none"> ●治療 ●薬局 <p>医歯薬出版株式会社</p> <ul style="list-style-type: none"> ●Clinical Rehabilitation ●Medical Technology ●医学のあゆみ ●産科技工 ●歯科衛生 ●産科看護 ●デジタルハイジーン ●プラクティス ●城郷臨床 ●臨床栄養 <p>株式会社新興医学出版社</p> <ul style="list-style-type: none"> ●Modern Physician ●脳と精神の医学 <p>株式会社金芳堂</p> <ul style="list-style-type: none"> ●第 21 <p>株式会社藤原出版新社</p> <ul style="list-style-type: none"> ●歯の臨床 ●乳癌の臨床 ●結核の臨床 <p>株式会社ミクス</p> <ul style="list-style-type: none"> ●Pharm. D. ●治療研究情報 ●月刊ミクス ●臨床と薬物治療 <p>株式会社協同医学出版社</p> <ul style="list-style-type: none"> ●作業療法 <p>株式会社永井書店</p> <ul style="list-style-type: none"> ●外科治療 ●産婦人科治療 ●総合臨床 ●臨床脳波 <p>株式会社厚生社</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ブレインサイエンス <p>株式会社メディカルレビュー社</p> <ul style="list-style-type: none"> ●Angiology Frontier ●Arthritis ●Biomedical Perspectives ●BRAIN MEDICAL ●CARDIAC PRACTICE ●Cardiovascular Med-Surg ●Cognition and Dementia ●COMPLICATION ●COPD FRONTIER ●Diabetes Frontier | <ul style="list-style-type: none"> ●Frontiers in Gastroenterology ●Frontiers in Glaucoma ●HORMONE FRONTIER ●International Review of Asthma ●Journal of Microwave Surgery ●Nephrology Frontier ●Pharma Medica ●RASとアジペリン ●Radiology Frontier ●Schizophrenia Frontier ●Surgery Frontier ●THE BONE ●The Circulation Frontier ●The Lipid ●THE LUNG perspectives ●インフルエンザ ●免疫学 評価と治療 ●介護支援専門員 ●がん患者と対応療法 ●臨治疫と宿主 ●がん分子標的治療 ●血液・免疫・腫瘍 ●血管医学 ●志球と腫瘍 ●ゾルム医学 ●疫学・臨床と腫瘍 ●再生医療 ●ジェノームロジー ニューホライズン ●胎息 ●脳と神経 ●腫瘍学プラクティス ●高齢アレルギーフロンティア ●免疫 Immunology Frontier ●臨床高血圧 <p>株式会社羊土社</p> <ul style="list-style-type: none"> ●Rhoペンチャー ●実務医学 ●レジデントノート <p>株式会社イノベーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ●PNEUMONIA <p>立正佼成会出版</p> <ul style="list-style-type: none"> ●立正佼成会出版 ●がんのサイエンス ●ストレスと臨床 <p>株式会社近代出版</p> <ul style="list-style-type: none"> ●臨床と微生物 <p>丸善株式会社</p> <ul style="list-style-type: none"> ●看護科学 ●心臓 <p>株式会社メディカル出版</p> <ul style="list-style-type: none"> ●あたらしい眼科 <p>株式会社日本医学館</p> <ul style="list-style-type: none"> ●今日の結核 ●聴覚・聴覚と医学 <p>協和化学療法社</p> <ul style="list-style-type: none"> ●癌と化学療法 ●Inotherapy ●Liver Cancer <p>株式会社医学情報研究所</p> <ul style="list-style-type: none"> ●新薬と臨床 | <p>株式会社自然科学社</p> <ul style="list-style-type: none"> ●医学と薬学 <p>立誠堂出版株式会社</p> <ul style="list-style-type: none"> ●淋病 ●日本胸部臨床 ●腸と心 <p>株式会社ラオ・サービス</p> <ul style="list-style-type: none"> ●医療と検査機器・試験 <p>株式会社日本臨牀社</p> <ul style="list-style-type: none"> ●日本臨牀 <p>株式会社ライフサイエンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ●iProgress in Medicine <p>ライフサイエンス出版</p> <ul style="list-style-type: none"> ●薬理と治療 ●Therapeutic Research <p>株式会社学研書局</p> <ul style="list-style-type: none"> ●月刊メダシン <p>立正出版株式会社</p> <ul style="list-style-type: none"> ●毒白質 核酸 酵素 <p>株式会社文光堂</p> <ul style="list-style-type: none"> ●Medical Practice ●病理と臨床 ●Quality Nursing ●臨床スポーツ医学 ●心エコー <p>協栄堂株式会社</p> <ul style="list-style-type: none"> ●感染 免疫 免疫 ●医業の門 <p>臨床医理行会</p> <ul style="list-style-type: none"> ●臨床病理レビュー <p>合資会社医薬出版</p> <ul style="list-style-type: none"> ●薬理と臨床 <p>医学図書出版株式会社</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ICUとCCU ●癌と肺 ●泌尿器科 ●老年消化器病 ●総合病院精神医学 ●腹部救急診療の進歩 ●臨床セミナー <p>株式会社杏林書院</p> <ul style="list-style-type: none"> ●体育の科学 ●保健の科学 <p>株式会社メディカルプレス</p> <ul style="list-style-type: none"> ●理学療法 <p><35社123ジャーナル></p> <p>2003年10月30日現在</p> |
|--|--|---|

24時間医学文献専門図書館 メディカルオンライン

最新号は発行後
2週間で配信

全文をその場で
即座に入手

写真やイラスト
はカラーのまま

- インターネットだからいつでも使える
- 最新号からバックナンバーまで
- 全て著作権許諾済み（複製権、公衆送信権など）
- 学会誌も商業誌も契約拡大中

www.meteo-intergate.com

株式会社メテオインターゲート

平成17年度千葉大学医学部附属病院医員(研修医)募集について

下記の通り研修医を募集します。

- 募集予定人員 106名
- 応募資格 平成17年第99回医師国家試験を受験し、マッチング・プログラムに参加登録する者
- 試験期日 筆記試験期日 平成16年7月19日(月・祝)13時30分～15時30分
面接試験期日 平成16年8月2日(月)9時00分～17時00分
平成16年8月9日(月)9時00分～17時00分
- 受付期間 平成16年6月21日(月)から6月30日(水)(消印有効)まで

詳細および出願書類についてはホームページをご覧ください。

<http://www.ho.chiba-u.ac.jp/>

- 連絡先 千葉大学医学部附属病院 総務課卒後教育係
電話 043-222-7171 (代表) 内線 6023・6024
FAX 043-224-3830
E-mail sotsugo@ho.chiba-u.ac.jp

平成16年度活性化事業（案）

● 電子カルテ講座

日 時：7月10日（土）午後4時～6時

場 所：虎ノ門パストラル

（地下鉄日比谷線神谷町駅下車徒歩2分、

地下鉄銀座線虎ノ門駅下車徒歩8分

TEL：03-3432-7261）

内 容：1. 病院経営とIT化の現状と将来

高 林 克日己

（企画情報部教授）

2. 情報開示と医院経営に役立つ電子カルテ

（電子カルテの実演有り）

伊 藤 賢 司

（南光台伊藤クリニック院長、宮城県

医師会医療情報ネットワーク推進委員

会委員）

3. NTT 関東病院における電子カルテシス

テムの現状

桜 井 幸 弘

（NTT東日本関東病院消化器内科部長）

対 象：千葉大学あのはな同窓会員、医学部学生

参加費：無 料

主 催：千葉大学あのはな同窓会

東京あのはな会

● 千葉大学医学部・大学院医学研究院・附属病院および卒業研修を紹介する会

日 時：未定（土曜日午後開催予定）

場 所：ロッテプラザ（JR 錦糸町駅前北側）

内 容：1. 医学部キャンパスと同窓会の案内

2. 千葉大学医学部における教育の特徴

3. 医学研究院研究内容案内

4. 平成17年度卒業研修の案内

対 象：千葉大学医学部同窓生、在校生、在校生父兄、

医学教育従事者、入試関連従事者、他大学医

学生、医学部受験希望者

参加費：1,000円（会場費、資料代）

（当日会場受付にて徴収）

参加方法：事前登録制

F A X 043-202-3753

E-mail idoso2@med.m.chiba-u.ac.jp

kshimizu@graduate.chiba-u.jp

で申し込み受付

主 催：千葉大学大学院医学研究院

後 援：千葉大学あのはな同窓会

「首都圏あのはな会」（フォーラムあのはな）開催のお知らせ

第2回「首都圏あのはな会」が神奈川あのはな会の主催で開催されます。

日 時：平成16年9月18日（土）午後4：00より7：00まで

場 所：横浜ベイシェラトンホテル（横浜駅西口駅前）

当日は

1) 特別講演 篠原信賢 北里大学医学部免疫学教授（昭45千葉大医学部卒）

「自然科学における幻影」（40分）

2) フォーラムあのはな：①「同窓会は同窓に何ができるか？」②「同窓は同窓会に何を望むか？」

③「大学は同窓会に何を期待するか？」のテーマにつき、シンポジウム形式で行います（80分）。

参加県：千葉、東京、神奈川、埼玉、茨城、栃木、群馬、山梨、静岡、長野の10地区及び大学。

3) 懇親会（会費10,000円）を予定しています。フォーラムあのはなにつきましては、各地区より代表者を一人選出して頂き、シンポジウム形式で行います。詳細につきましては、後日、各地区あのはな会にご連絡申し上げます。多数の会員皆様のご参加をお願い申し上げます。参加者は各地区あのはな会でとりまとめて頂き、地区ごとに参加人数をお知らせ下さい。

神奈川あのはな会

事務局 〒236-0021 横浜市金沢区泥亀2-8-3 金沢病院内

担 当：西 山 美 矢 子、渡 辺 絢 子

T E L：045-781-2611（代） T E L/F A X：045-786-8668（直）

第9回(2004年度)あのはな同窓会賞受賞者決定

功労賞

永井友二郎(永井医院、昭16)

「全人的医療を基本とした『人間の医学』を求めた」

鈴木守(群馬大学学長、昭39)

「マラリア対策推進の研究と実践」

William Chao(曹世植)

(アジア太平洋消化器内視鏡学会会長、昭40)

「消化器内視鏡の医療技術に関する国際的指導と普及活動」

学術賞

橋本謙二(大学院医学研究

院精神医学助教授、九州大薬昭57)

「統合失調症の生物学的マーカーに関する研究」

鉄治(カリフォルニア大学サンフランシスコ校

医学部助教授、平元)

「大腸癌の発癌機構解

明と治療のための標的分子の同定」

渡邊紀彦(医学部附属病院

アレルギー膠原病内科医員、平3)

「免疫抑制遺伝子

BTJAの同定とそのリンパ球抑制機構の解析」

編集後記

学問の希薄化と会報の重み

20世紀は物理学の時代であったと言われることがあります。生命学者から見ると、確かに、物理学は、生命科学の発展の礎であったとも言えます。その理由は、例えば、DNAの二重らせん構造の発見にしても、X線解析なくしてその発見はなく、X線解析の基は、英国を中心とする物理学的基盤によると思えるからです。分子生物学の根幹作りは物理学者が主役であったとも言えます。

第6回あのはな同窓会学外研究助成募集要項

第6回(2004年度)あのはな同窓会学外研究助成の応募を左記により受け付けます。

一、助成対象 本会会員(甲および乙)で、大学およびそれに準ずる研究所以外の施設に勤務している医師および歯科医師が、個人またはグループの代表となつて行う研究。

一、助成金 本年度の助成総額は150万円とし、1件につき50〜100万円を予定しています。

一、応募方法 6月1日から7月31日までに申請して下さい。

一、助成研究の決定 選考委員会および常任理事会の議を経て、会長が行います。審査結果は2004年11月末までに各申請者に通知すると共に、あのはな同窓会報に掲載します。

一、問い合わせおよび申請用紙請求先

千葉大学医学部内あのはな同窓会事務局

右選考は「あのはな同窓会学外研究助成規定(あのはな同窓会報130号に記載)」にもとづいて行われます。

では、百年後、21世紀が生命科学の時代となれるのでしょうか。もしもなれるとするなら、その基盤に日本の医学・生命科学があったと言われるでしょうか。筆者は、このような観点から、国立大学の独立法人化の是非を考えている今日この頃です。会員の皆様には、また違った観点から最近の様々な変革に思いをはせていることと存じます。今後、本会報の場を借りて大いに議論しようではありませんか。その橋渡しをすべく、この編集後記については、今後評論も加味させ様変わりさせることとします。

最近の変革について懸念する点を一言で述べると、ボトムアップからトップダウンへの変革という点です。「非常識の常識化、未知から既知、一発見から未曾有の展開」を目指す者には、学問はボトムアップ方式から通常生まれて来ていると考えているからです。確かに、基礎と製品化をつなぐ第二種基礎研究(吉川弘之「持続可能な発展の鍵となる第二種基礎研究」日経サイエンス2004年5月号より)などは社会に必要でしょう。しかし、実利を主眼とせざるを得ない(残念ながらそのようにしか見えない)トップダウン方式の種々の変革は、ようやく芽生えてきた戦後の日本の学問を消滅させる危険があります。

せめて、現在の変革が英国および米国からの輸入品でないことを願う限りです。以上のような懸念をうまくまとめた最近の論調で秀作に値するものには、小川一夫(大阪大教授)「経済教室―国立大法人と研究開発―基礎研究充実の仕組みを」(日本経済新聞2004年3月4日)および石井紫郎(東大名誉教授)「学術研究推進に関する諸問題」(科学新聞2004年3月5日)がありますのでご参照下さい。

おくやみ

- 井上 正澄(昭11)
- 荻野 進(昭11)
- 飯田 政雄(昭12)
- 鈴木 重雄(昭14)
- 横沢 泰夫(昭14)
- 石井彪之助(昭15)
- 大橋 常安(昭15)
- 八卷 幸式(昭17)
- 佐藤 達郎(昭23)
- 鈴木 隆之(昭23)
- 斉藤 弘(昭24)
- 和田 育二(昭24)

- 山田 郁(昭29)
- 鹿島 洋(昭30)
- 山野 徳雄(昭30)
- 佐藤 直義(昭31)
- 早川 尚男(昭32)
- 成瀬 幸月(昭36)
- 金澤 正昭(日蘭大昭36)
- 岡崎 伸生(昭37)
- 小原安喜子(昭39)
- 金 英哲(昭50)
- 飯野 康夫(昭53)
- 清水 浩史(平7)

一、あのはな同窓会としての活動の一環として、この会報作りも企画されました。元来、両者の想いが一致して、学生および会員の有志により発行されてきたのが本会報です。この会報があつてこそ、同窓会の充実化が実現してきていると言つても過言ではないでしょう。

平成16年度より、30数年ぶりに学生編集部が復活します。一方久しぶりに復活した昨年の亥鼻祭では、「千葉大学はこのままでよいのですか?」という種のテーマが掲げられていました。今後、このような若い方々のエネルギーを吸収すべく、本会報の編集に新たな息吹を注ぎ込むよう努力します。会員の皆様方には、様々な新企画のご提案をよろしくお願い致します。

- 平成16年度編集長 鈴木信夫(昭47)
- *同窓会活性化のためにも本会報をどのようにすべきかご意見をお寄せ下さい。
- 学生編集委員が各地のあのはな同窓会支部や緒先輩へお伺いして取材する場合があります。ご協力をお願い致します。
- 学生編集部編集委員
 - (6年次) 青木香代子
 - (5年次) 野村亮太
 - (4年次) 青木智広
 - (3年次) 荒木信之、大熊雄介、向井宏樹
 - (2年次) 幸本達矢、松岡潤
 - (1年次) 稲垣千晶、奥山翼、乗本将輝、山地共弘